

地域教育情報紙

山梨県教育委員会 中北教育事務所

中北.com

〒400-0204 韮崎市本町4-2-4

TEL 0551-23-3046

6

中北地区の地域社会 (COMmunity) の心の交流 (COMmunication) をめざします

北杜 まるごと プロジェクト

山梨県立北杜高等学校

山梨県立北杜高等学校（池谷佐知子校長）の『食杜北杜』の取り組みが、文部科学省・経済産業省共同による「第10回キャリア教育推進連携表彰」の奨励賞を受賞しました。学校を中心としたキャリア教育の推進のために、産官学が連携・協働して実施する取り組みで、今回、「山梨県北杜市における『食と農』を活かした住み続けられるまちづくり推進プロジェクト」の成果が認められました。

高校のある北杜市の課題解決のために ～SDG sの視点から～

若者の地元離れをくい止め、地域の魅力を再認識し住み続けられるまちづくりの実現へ。平成30年度、総合学科総合情報ビジネス系列の生徒を中心に、地元食材を使用したソーセイジなどの新商品開発プロジェクトは始動しました。



高校生も事業者も本気

商品開発の第一歩。ワークショップでは、高校生ならではのアイデアを地元の事業者につづけます。事業者の皆さんもとことん本気で勝負。素材、経費、ネーミング…。

生徒に「発信する力」が

「外部の方（事業者・市職員）と生徒が、対等に関わることで鍛えられました。ワークショップでは、市職員や担当教員がファシリテーターとなり、安心して参加できる場をつくることで、普段あまり意見を言わない生徒が、積極的になりました。また、商品のネーミングや山梨日日新聞『10代の意見』への投稿を通して、伝える力も身につけていると実感します。」（商業科主任 坂井護明教諭）

校外販売での出会い

「都内や県内の販売先に卒業生が顔を出してくれるんです。自分たちで何かをつくったという意識、形に残した経験があるからこそ、遠くにいても地元を思う気持ちが根付いていると思います。」（坂井教諭）



ピンチをチャンスに ～県内高校初のネット販売へ～

令和元年度からのコロナ禍で、対面販売中止に。「それを機に非対面のネット販売に挑戦しました。『本物』体験だからこそ、継続的な販売や情報発信などの課題も明らかになりました。」（坂井教諭）

今年度で4年目の取り組みです。

「実際の商取引に関わることができる商業教育の実践の場を増やしていくことで、商業科の魅力アップにつながる事が確信できました。ここ数年、高校生が生き生きと販売する機会が失われ、残念で仕方ありませんでしたが、このプロジェクトに取り組みたいと入学した生徒や、この経験から地元の市役所に就職する生徒もいます。」（池谷佐知子校長）

3月23日（水）～27日（日）にイトーヨーカドー甲府昭和店にて校外販売予定です。ぜひお越しください。

キャリア教育

「キャリア」とは「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」（「文科省・キャリア教育の手引き」より）のことです。小学校・中学校・高校はそれぞれにキャリア教育の目標を持ち、発達段階に応じた教育活動相互のつながりを考え、校種の途切れのないキャリア教育（キャリア・パスポートの導入など）に取り組んでいます。単に職場体験だけでキャリア教育した気になっていないか、社会に出ることを考えた指導になっているか、現実味はあるか、家庭や地域と連携して体験的な学習を重視しているかなど工夫が必要です。

山梨県立巨摩高等学校（横森伸司校長）は、地域の小中学生を招いて『わくわくサイエンスin巨摩高』を開催しました。例年、地域の学校間交流事業の一つとして継続しています。先生役の理数創造コースの1・2年生が、小中学生の「？」を「！」にする挑戦をしました。

「小学生にわかるようにと、前日まで予備実験や説明の練習をしました。」と準備万端の高校生。ブースの1つ「超低温の世界」では、窒素が液体化する温度「 -196°C 」に注目。大人には、缶の表記で見かける身近な温度ですが、子どもたちは、液体窒素を容器に入れて、ロケットのように飛ばしていました。また、「ペンハムのコマ」のブースでは、白黒のコマを回すと、なぜか赤や緑が現れ、小学生は思わず歓声をあげていました。時には思いもよらない小学生の質問に、目を合わせ苦笑いする高校生の姿も。ブースのあちらこちらで、高校生のお兄さんお姉さんに頼る小学生もいました。

各グループ入れ替えのすきま時間には、実験の見せ方や説明の仕方を練り直す高校生の姿がありました。「相手が毎回変わるので、その都度言い換えも必要でした。わかりやすく説明することで再確認ができ、自分の知識も深まりました。」（理数創造コース2年生）



「相手の反応に臨機応変に対応する場面も見られ、創造性や社会性も身についたのではないのでしょうか。コロナ禍ではありますが、工夫をしながら実施できたことは生徒にとって貴重な体験でした。」（担当教諭）

「来年も必ず来ます！」との中学生の声に、高校生への期待が高まります。「日常の気づきがサイエンス！」（横森校長）の言葉どおり、日々の生活のそこかしこに、サイエンスは存在しているのですね。

#中北バトン

様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを語っていただきます。5回目の今回は、韮崎市の仲澤俊彦様です。

「まなび」による市民の生きがいづくり

韮崎市中央公民館 館長 仲澤俊彦

韮崎市中央公民館は、市内11の地区公民館と連携し、さまざまな「まなび」の場や情報の提供をするほか、専門的な機関と連携しての住民サポートをとおして、学びを地域に生かす「むすぶ」役割を果たしています。

事業としては、市内の文化財等を見学して地域を学ぶ「ふるさと歴史再発見ウォーク」、デイキャンプ・パンづくりや食品サンプルづくりなどの小学生を対象とした「チャレンジ体験教室」や「スマホ活用講座」「絵画鑑賞と童謡とピアノのコンサート」、月に一度の市民大学「武田の里ライフカレッジ」などのさまざまな分野の講座やイベントを、市教育委員会や韮崎大村美術館、武田の里文化振興協会などとの連携により実施しています。

また、市内に伝わる民話を基にした大型紙芝居の制作を市民と共に行っています。作品は、朗読グループにより地区公民館の分館や福祉施設等で披露され、地域文化の継承の一助となっています。

残念なことに、一昨年から新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度も多くの講座やイベントが中止若しくは規模縮小となりました。

令和4年度も新型コロナの影響は未だ不透明ですが、生涯学習の歩みを止めることなく、公民館になじみの薄い若い世代の皆さんが興味を持ってくれるような講座やイベントを企画していきたいと考えています。市広報やチラシをご覧いただき、ご参加くださいますようお願いしています。

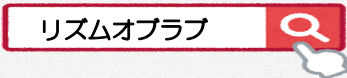
赤いTシャツがトレードマーク、「やまなし大使」でもある渡辺光美さん（甲府市）は、県内外各所で、「命を守る」体験型プログラムを行っています。



「かけがえのない大切な命を自分で守る心と体づくり」の体験型プログラムを考案したきっかけは、2001年の大阪教育大学付属池田小事件でした。その後、約20年務めた教職を辞し、2009年「元気で明るく安全な山梨創り」を目指す市民団体「リズムオブラブ」を設立しました。乳幼児から高齢者まで、障害の有無に関わらず幅広い年齢層を対象にした「防犯・防災・交通安全」のトーク（講話）&リズムエクササイズ（実技）は、もしもの場面を考えて、走る動きや大声を出すといった実践も組み込まれ、わかりやすいと大好評です。

公民館活動としてスタートした活動も、今では、行政・警察・消防・企業・教育保育機関・介護医療機関等と協働し、「山梨発信！健康安全郷育プログラム」として進化しています。渡辺さん自身も「健康安全郷育アドバイザー」「防災士」と、バージョンアップし続け、動画配信やテレビ・ラジオ等、様々なカタチで、想いを伝えています。

地域教育の1つとして「かけがえのない命の尊さと守り方」をともに育んでみませんか。渡辺さんは、いつでも出張講座（体験）に駆けつけます。問合せ先は、Eメール watanabemitsumi@gmail.com です。令和4年度の活動計画を検討している団体、幼稚園、保育園、学校の皆さん、ぜひ1度体験してみませんか。



Q 不審者に出会ったときの対処の合い言葉をさがしてね。



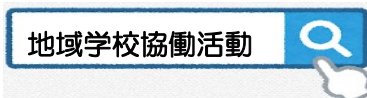
つなぐ(Connect)！ ひろげる(Spread)！ 昭和町のCS！

昭和町教育委員会

中北地区の公立小中高校で、地域住民らが学校運営に参画する「コミュニティ・スクール（CS）」の導入が進められています。国は今、「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的推進を目指しています。学校が保護者や地域の皆さんとともに知恵を出し合い、学校運営に生かしていくことで、子どもたちの豊かな成長を支えていこうとするこの取り組み。参考となる昭和町の取り組みを紹介します。

昭和町は、平成26年度に押原小、翌年に西条小・常永小・押原中を「学校運営協議会のある学校」に指定し、学校と地域との連携を「地域に開かれ、地域とともにある学校づくり」ととらえ、特色ある教育活動を行っています。4年前からは、CSD（コミュニティ・スクール・ディレクター）を教育委員会内に配置、各学校の取り組みを支援し、地域連携は「発展期」をむかえます。CSDの小林治夫さんは、「今後は、地域学校協働活動を見据え、組織の垣根を越えたゆるやかなネットワークづくりが目標となるのでは。」と考えています。また、「学校の目標と課題の共有、教職員の多忙化改善、組織ではなく体制づくりがキーワードとなる。」と話してくれました。

昭和町教育委員会は、毎年、研究集録（冊子）を発行しています。そこには「地域とともにある学校づくり」の、たくさんの事例やヒントがあります。また、昭和町中央公民館には町内各学校が発行するCS学校だよりが集められ、学校の取り組みを気軽に知ることができます。問い合わせ先は、昭和町教育委員会学校教育課（TEL055-275-8631）です。遠慮なくご活用ください。



「卒業」の声を聞く時期となりました。この時期になると、来年度の教育全般のなかでも、特に心を配って取り組んでいく内容が教職員に向けて明らかになります。「山梨県学校教育指導重点」といいます。その内容について、地域の皆様にも一部ご紹介しましょう。

学び続け 共に生き 未来を拓く やまなしの人づくり

山梨県教育委員会

令和4年度の指導重点は『山梨県教育大綱』『山梨県教育振興基本計画』を踏まえ作成されました。5つの「指導重点項目」とその基盤となる「学級経営・ホームルーム経営の充実」についての主な取組が示されました。さらに指導重点関連データや共有しておきたい情報（「日常生活を営む上での基本的生活様式」「学校防災計画等の評価・見直し」「ICTの効果的な活用に向けて」）も掲載されています。「山梨県学校教育指導重点 説明資料」を参考に次のようにまとめました。

今年度のまとめから

- ①学習指導要領に基づく資質・能力の育成・1人1台端末の効果的な活用→引き続き重点的に実施
- ②スタートカリキュラムの共有・評価・改善→引き続き異校種間の連携を
- ③義務教育9年間を見通した教育→小学校高学年への教科担任制の導入を機に一層の小中連携を
- ④SOSの出し方に関する教育→児童生徒一人一人に対応した切れ目のない組織的な支援を

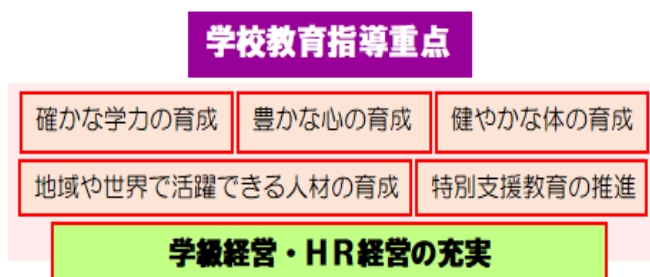
来年度ここがポイント！

- ①全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現

先行き不透明な「予測困難な時代」。多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるために、「令和の日本型学校教育」の構築をすすめます。

- ②「学級経営の充実」がすべての土台

学級経営は「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」を貫くものです。「仲間に意見が言える」「自分も他の人も大切に」「安心して過ごせる学級・学校」等、児童生徒一人一人のよさや可能性を十分発揮できる学級や学年集団作りをさらに充実させます。



全教職員が現状や課題を正しく認識し、組織的に対応しています。地域の皆様、お近くの各学校の取組を通して、子どもたちが成長する姿を応援してください。

※令和4年度山梨県学校教育指導重点に関する資料は、山梨県教育委員会のHPに掲載されています。

今年度も「中北.com」を、ご覧いただきありがとうございました。

取材先では、それぞれの団体・学校の熱心な取り組みを見聞きし、小さな記事になってしまうことを申し訳なく思っていました。また、「中北.com」の記事を学級通信に載せたいという問い合わせや、発行後の反響についての連絡をいただきました。

これからも、横のつながりを広げられる情報紙づくりに励みます。

ご意見・ご要望、取材依頼など、お待ちしております。

令和3年度 『中北.com』 編集・発行 中北教育事務所 地域教育支援 担当：加藤忍・伊神美香